

*スタンドアップパドルボードの略。サーフボードに似た板の上に立って、パドルを漕いで遊ぶスポーツ。ハワイ発祥のマリンスポーツで、最近日本でも注目されている。
*今年は8月4日に開催。募集定員4名。詳細は茂来館まで(86-2041)
*江戸時代、1日十石(1500kg)の米が十石街道を通過して佐久から上野村へ運ばれていたという歴史にならない、米を担いで十石峠を越えようというイベント。2015年にスタート。毎年11/23日に開催。



発掘! さわめびと

就職と同時に佐久穂町に移住。毎日のように地元の川で竿を振るう、溪流釣りの達人。



せきりゅういちろう
関龍一郎さん

1976年神奈川県綾瀬市出身。東京農大卒業後、(株)吉本に就職し、佐久穂町に移住。ルアー釣りの他にSUP、スノーボード、早起き野球、ナイターソフトと趣味は多彩。動画制作もその一つで、町からの依頼で八千穂高原スキー場、八千穂レイク管理釣り場のPR動画を制作。いづら発掘隊主催の「*十石越えプロジェクト」にもスタッフとして参加。家族は奥さん(佐久市出身)と2歳半の息子の3人。その息子に釣りを教えるのが夢。

「川に行っても、おじさんばかりで、子どもが全然いない。それが本場にさびしい。子どもたちが釣りの楽しさ、魅力をぜひ知ってもらいたいですね」

関

龍一郎さんの釣りは、いわゆるルアー(疑似餌)釣り。狙うのは、イワナやヤマメなどの溪流魚だ。

「ルアー釣りは、餌を捕ったりついたりする手間がいらないし、しかも攻めの釣り。じっとしているのが苦手な性格の自分には合っていると思います」

しかも、住まいは千曲川沿いという好立地にある。

「八十巖橋のそばなので、玄関を出て二分で竿が振れるし、平日、仕事が終わってサツと出かけたなり、休日家族が起きる前に行って、朝飯用の魚を釣ってきたり。釣り好きのほくにとつては、最高の環境です」

と、うれしそうに話す。

溪流釣りというと、源流を求めて、奥地に分け入っていくイメージがあるが、関さんはそれ

はしない。

「奥地に入らなくとも釣れるし、源流の天然繁殖魚は、乱獲すると根絶やしになってしまう恐れがありますから」

関さんが釣りを始めたのは小学校低学年の頃。最初は竿釣りだったが、いところからバス釣りを教わり、ルアー釣りに。小学校四、五年の頃だ。

「初めてバスがかかったときはすごい衝撃で、しかもジャンプして針を外されて、『うわーっ、すげえ魚がいる!』って」

以来、バス釣りにハマり、実家(綾瀬市)近くのジャリ穴池で竿を振り、津久井湖や相模湖まで自転車で遠征した。

転職が訪れたのは、大学卒業時。大学の就職課でたまたま見つけた吉本と実家から通える会社二社から内定をもらい、悩ん

だ末に、「面白そうな方」を選んだ。

「神奈川県を離れるのはさびしかったけど、中央道を使えば4時間で帰省できるし、釣りもスノーボードもできるな、と」

そうして縁もゆかりもない佐久穂に来て二〇年、近隣の川にもすつかり精通した。

「どこに魚がいるかは、抜井川だったら大体わかりますね」

釣った魚の命は大切にいたたく「キャッチ&イート」派。なかでもオススメは一夜干しだ。

「骨の硬いイワナも一夜干しにしてじっくり焼くと、頭から骨まで全部食べられます」

最近「SUP」にもハマり、仲間と遊ぶほか、体験会を催して、その普及にもつとめている。

そして、早起き野球にナイターソフト、冬はスノーボードだ。

佐久穂のアウトドアライフをこれほど満喫している人もいないのでは? と思えてくるが、

「地元の人からは、地元の人より、地元を楽しんでいると言われています(笑)」

ただ関さんは、釣りを取りまく現状には危機感を抱いている。

「釣り人が減り、漁協の収入も放流量も減り、釣りを取り巻く環境は(負)のスパイラルに陥っている」という

のだ。

とりわけ、関さんが心配するのは次世代の釣り人が育っていないこと。

「川に行っても、おじさんばかりで、子どもが全然いない。それが本場にさびしい」

そこで関さんは昨年八月、子どもたちに釣りの魅力を伝えようと、公民館や漁協、八千穂漁業などの協力を得て、「ルアーフィッシング教室」を開催した。一日目は室内でのキャストイング練習や講義などを行い、二日目は抜井川でのフィッシング、魚の調理、実食と盛りだくさんの内容だ。

こうした取り組みの根底には「自分の楽しみを、なるべく多くの人に広め、それを分かち合いたい」という、関さんの強い思いがある。

「この町は、ここで生まれた息子にとつてもふるさとなる町。ふるさとがよくなるためだったら、どんなことでもやってみたい。吉本ですか? ハイ、吉本を選んで大正解でした(笑)」



昨年行われた「ルアーフィッシング教室」での釣果(左が関龍一郎さん、右が古屋青空くん=当時小4)

取材・文/中村仁(ライター)、八千穂高原在住